

平成 22 年度健康生活科学研究所外部評価委員会【事前評価】

個票 No.	研究課題名	評価項目	評価	合計	コ メ ン ト
1	感染症発生動向調査における遺伝子解析手法によるウイルスを中心とした病原体検索の体系化に関する検討	必要性	4.8	A	<p>【評価の結論に至った理由・考え方】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>他の機関で代替できない重要な研究であり、国や他の都道府県の研究所と協力することでより効果的に実施できる。</p> </div> <p>《主な意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民にとって極めて重要な仕事で、他の機関では代替できない。 ・国や他の都道府県の研究所と共同で進めることで有効性や効率性が向上すると思われる。 ・感染症の流行状況や感染性の強さ、重症度を統計的に分析できるため非常に評価できる。
		有効性	4.2	B	
		効率性	3.8	B	
		代替性	4.4	B	
				17.2 採択	
					<p>【提案機関へのアドバイス】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>一般県民へのわかりやすい説明に努めるとともに、研究内容に応じた予算獲得に努めること</p> </div> <p>《主な意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般県民に研究内容や成果を理解してもらうために、工夫してわかりやすく説明してほしい。 ・研究内容に比べて予算規模が小さいように見受けられる。今後の業務内容に合わせて、予算や人員の増加を検討してほしい。 ・昨年度に導入した遺伝子解析装置を十分に活用し、研究に取り組むこと。 ・県としてやるべき部分を明確にし、他機関と調整のうえ実施すること。

平成 22 年度健康生活科学研究所外部評価委員会【事前評価】

個票 No.	研究課題名	評価項目	評価	合計	コ メ ン ト
2	飲料水に係る健康危機事例の解析と迅速検査法の確立及び除去対策に関する研究	必要性	5.0	A	<p>【評価の結論に至った理由・考え方】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>県民の安全・安心を確保するための重要な研究であり、国や他の都道府県の研究所と協力することでより効果的に実施できる。</p> </div> <p>《主な意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・琵琶湖・淀川水系では下水も流れ込み、下流になるほど汚染度は高くなる。県民の健康のために是非やらなければならない。 ・県民の安心感に繋がるもので、ニーズは大きく、重要性は高い。 ・兵庫県は大阪府、京都府、滋賀県の下水を水道原水としていることや、全国でもゴルフ場が多く、農薬の混入が心配されるため、県民の安全・安心を確保するための重要な研究である。 ・国や他の都道府県の研究所と共同で進めることで有効性や効率性が向上すると思われる。
		有効性	4.4	B	
		効率性	3.8	B	
		代替性	4.4	B	
				17.6 採択	<p>【提案機関へのアドバイス】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>研究内容を系統的に整理するとともに、研究内容に応じた予算の獲得や、県民への直接的な情報提供に努めること。</p> </div> <p>《主な意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究内容を系統的に整理し、年次計画に反映すると良い。 ・研究内容に比べて予算規模が小さいように見受けられる。 ・健康福祉事務所に対してだけでなく、県民に対して、直接的な情報提供に努めること。 ・県としてやるべき部分を明確にし、他機関と調整のうえ実施すること。

平成 22 年度健康生活科学研究所外部評価委員会【中間評価】

個票 No.	研究課題名	評価項目	評価	合計	コ メ ン ト
3	兵庫県におけるインフルエンザウイルスの流行実態に関する研究	必要性	4.4	B	<p>【評価の結論に至った理由・考え方】</p> <div data-bbox="813 312 2024 453" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>県内におけるインフルエンザの実態を把握し、新型インフルエンザ等への対応を強化してきたことは、県民ニーズも高く、評価できる。</p> </div> <p>《主な意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型インフルエンザ等への対応能力を強化されてきたことは大きく評価できるが、実際にどれだけ県民の役に立つか、今後の実績を見ながら判断する必要がある。 ・ 県のインフルエンザ対策上、県内に特化した流行実態の把握は必要であるとともに、県民のニーズも大きい。 ・ 現在の流行状況、亜型の性状、薬剤耐性等について、県内の状況を把握することは重要。 ・ 高病原性鳥インフルエンザ（H5N1）の検査体制を改良・維持することは重要。 ・ H5N1のような強毒性ウイルスがどのような変異をするのか未知数であり、また、海外から容易にウイルスが持ち込まれる現状で、ウイルスの遺伝子変異を同定する技術の構築は最優先で行うべき研究である。 <hr/> <p>【提案機関へのアドバイス】</p> <div data-bbox="813 959 2024 1099" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>迅速かつ正確な検査体制の維持と県民への情報提供に努めること</p> </div> <p>《主な意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関や健康福祉事務所との協力により、しっかりと実績をあげてほしい。 ・ 健康福祉事務所に対してだけでなく、県民に対して、直接的な情報提供に努めること。 ・ H5N1亜型も含め、インフルエンザウイルスの迅速かつ正確な検査体制を維持してほしい。
有効性	4.4	B			
効率性	4.4	B			
代替性	4.6	A			
			<p>17.8 継続</p>		